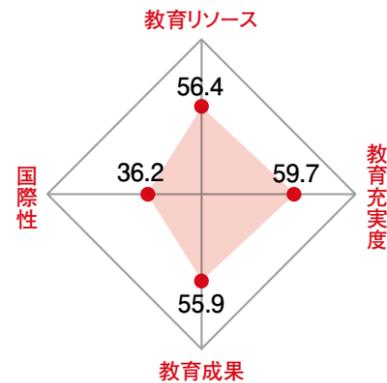




学生数/9135人 学部/人文、人間発達科学、経済、理、工、都市デザイン、医、薬、芸術文化
大学院/人文科学、人間発達科学、経済学、芸術文化学、生命融合科学教育部、
医学薬学教育部、理工学教育部、教職実践開発
●THE世界大学ランキング2020/1001+位
●同アジア大学ランキング2019/301-350位
●同世界大学ランキング日本版2019/=89位

THE世界大学ランキング日本版2020の結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	53.3	79位	外国人学生比率/3.1%
教育リソース	56.4	=73位	日本人学生の留学比率/2.8%
教育充実度	59.7	122位	外国語で行われている講座の比率/3.7%
教育成果	55.9	66位	海外の大学との大学間交流協定数/219校
国際性	36.2	151-200位	



ALL富山での教養教育改革

～2017年度 五福(人文、人間発達科学、経済、理、工、都市デザイン)、杉谷(医、薬)、高岡(芸術文化)の3つのキャンパスに分かれて、専門とのつながりを重視した教養教育を展開

2018年度～

教養教育の「統合・改革」

全学部統一の授業科目メニューを提供
9学部全ての学生が全学部統一の教養教育授業科目を履修可能。



学部混成のクラスによる教養教育など新たな取り組み

キャンパスや学部の壁を越えた多様な学びによる他者への理解の深化。

教養教育は基本的に五福キャンパスで1年次に実施

月	火	水	木	金
五福	五福	五福	杉谷 高岡	杉谷 高岡

新しい教養教育を担う「教養教育院」
教養教育に責任を持つ組織として「教養教育院」を設置し、課程編成と教育の質保証を担当。

各キャンパスを結ぶシャトルバスを運行



- 学びの多様化: 各キャンパスの科目メニューを全学で統合することで、学びの選択肢が増加
- 基盤の共通化: 学生に多様な学びを促す「学修の可視化ツール」の開発と全学での活用
- 交流の活性化: 学部の壁を越えた多様な学生の学び合い、研究者同士の交流の活性化

注目! 対話と評価の充実が ALL富山での改革推進の鍵

齋藤学長は就任以来、学生の声を直接聞くために学内を足しげく回っている。というのも、教職員だけでなく、学生も一緒になって「おもしろい大学」を実現させたいと考えているからだ。英語力の高い学生を対象とした学部横断プログラム「上級クラス」の設置は、学生の要望を受けて企画したもの。他にも、学生目線でさまざまな教育改善に取り組んでいる。

また、教員の人事評価では、全学共通の評価基準の導入を進めている。これは、教員の「がんばり」を全学的に、経年で追えるように可視化することが狙いで、努力に報いる評価のしくみを充実させたいと考えた。学生の意見や教員の挑戦などが、「おもしろい大学」づくりに生かされている。



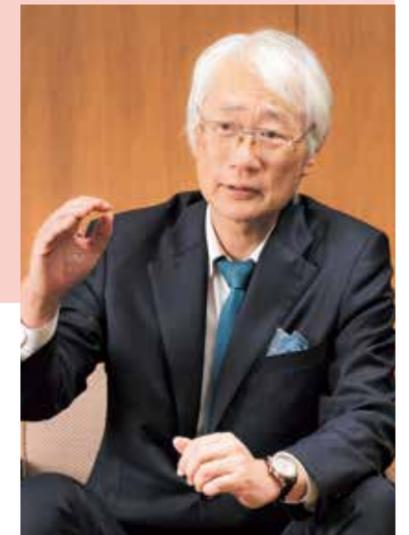
▲▶上は学長と学生のランチ会、右は学生企画による「学長・副学長と話す会」の様子。学生も大学づくりに参加している。

富山大学

CASE STUDY

ALL富山で取り組む「おもしろい大学」の実現

ランキングを活用して改革の方向性を全学で共有している富山大学。個々の力を結集し、全学を挙げて大学や地域の魅力向上に取り組んでいる。



学長 齋藤 滋
さいとうしげる ●1980年奈良県立医科大学卒業、1984年同大学大学院医学研究科修了(1985年医学博士)。同大学産婦人科学助教授などを経て、1998年富山医科薬科大学(現富山大学)産婦人科学教授。2016年富山大学附属病院病院長、富山大学副学長。2019年より現職。専門は産婦人科学。

ランキング結果は成果や課題の共有ツール

今回の日本版ランキングで本学は、総合順位が10ランクアップしました。これは主に「教育成果」のスコアが上昇したためです。セミナーやPBLなどを通して地元企業との関係を深め、本学の教育がより深く理解されたことで評価が高まったと受け止めています。

一方で、「国際性」や「教育充実度」は課題です。留学生や学生に直接意見を聞くなどして、改善点を明らかにし、できることからどんどん改革を進めていきます。私は大学ランキングを、自らが改革改善に注力すべき点を示すインジケータ(指示器)だと捉えています。そのため、成果や課題を学内に周知し、共有するツールとして活用しています。

本学は県内の国立3大学が2005年に統合してできた大学です。今もキャンパスは3つに分かれており、それぞれに特徴的な学部構成であったことから、実質的な統合が進まないことが課題となっていました。しかし、課題はむしろ、伸びしろ。個々に取り組んで今の状態にあるのなら、みんなで取り組めばもっと魅力を高められるはず。私はこの大学を、「おもしろい大学」にしたと考えています。それは、学生や教職員が学問分野や立場を越えて互いに学び合い、ワクワクすることに一緒に挑戦する大学です。その実現に向けて今、ALL富山で改革に取り組んでいます。

さまざまな価値を生む学内外のネットワーク化

改革の第一弾が、教養教育の「統合・改革」です。以前は専門とのつながりを重視して、キャンパスごとに異なる科目メニューで教育を行っていました。それを、全学で科目メニューを統合し、1つのキャンパスに学生を集めて学部混成クラスで教育を行う形に変えました。これにより、学部の壁を越えて多様な学生が学び合う環境が整いました。ほかにも、全学共通

の学修ツールの開発など、資源の効率的な活用により、統合のメリットが生まれています。数理・データサイエンス教育にも、本学は全学部で取り組みます。本年度から1年生は全員が入門科目「情報処理」を履修します。2、3年次には学部ごとにそれぞれの専門性を反映した科目を用意しており、一定の単位を修得した学生には、プログラムの修了証を発行する予定です。これを学生が就職活動で活用すれば、企業に本学の数理・データサイエンス教育を周知できます。本学の教育への企業の信頼が高まれば、求人にもプラスに働かずして、全学で取り組むことで大学の特色として理解され、大きなインパクトを与えることができると考えています。

研究も、ALL富山で取り組めます。大学が研究で地域に貢献するには、論文ではなく具体的な成果をゴールにする必要があります。例えば、医、工、看護が連携したアルミ製の軽量車いすの開発では、地元のアルミ産業への貢献が期待できます。これは、研究者だけ、1つの学部だけ、本学だけではできないことです。今後も学内外のネットワーク化を進めて、本学や地元富山県の魅力をさらに高めていきます。